


観光社会資本の事例

テーマ	伝統、文化を育む橋、浅野川大橋	
【施設の状況写真】		
		
<p>美しいアーチ型が大正ロマンを伝える浅野川大橋は、金沢らしさを象徴する地域のシンボルとして多くの人に親しまれており、古きよきものを尊重する金沢市民の気質がその姿から伝わってくる。</p>	<p>川の穏やかな流れと曲線を描くアーチ橋が、城下町の情緒を伝える。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>朝夕の通勤・通学時間帯には、金沢市の幹線道路である国道159号に架かる橋として、自転車に乗った学生や車が多く行き交う。</p>	<p>4月の浅野川園遊会では、浅野川河畔に設けられた浮舞台で金沢の伝統芸能が多彩に、優雅に繰り上げられる。</p>	<p>6月の百万石まつりでの加賀友禅燈籠流しでは、毎年多くの人が浅野川大橋から燈籠の流れる姿を見物する。</p>
【観光資源としての利用状況】 別名「女川」と呼ばれる浅野川に架かる3径間連続アーチ橋。その昔は「轟の橋」と呼ばれ、度重なる大洪水による損壊を契機に、1922(大正 11)年に現在の永久橋に架け替えられた。国の登録有形文化財にも指定されている。この浅野川大橋界隈は、古くからの町屋が多く格子戸が続く街並みが残っており、観光都市金沢を代表するスポットとなっている。また、4月の浅野川園遊会、6月の百万石まつりでの燈籠流し、冬の風物詩である友禅流しと、1年を通して金沢で育まれてきた伝統文化や趣を周辺で楽しむができ、多くの観光客の姿が見られる。		

テーマ	伝統、文化を育む橋、浅野川大橋
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 一般国道 157 号線 浅野川大橋</p> <p>○所在地 石川県金沢橋場町・主計町～東山</p> <p>○事業名 ー</p> <p>○事業主体 石川県 管理は石川県から建設省(現国土交通省)に移管されている。</p> <p>○事業期間 大正 11 年～大正 11 年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>○地域活性の効果 金沢の伝統芸能を一堂に会した浅野川園遊会、藩政期の情緒漂う主計町の復活など、浅野川大橋を取り込んだまちづくりの取り組みは、年々活発になっている。また、国の登録有形文化財に指定されたこともあり、周辺で育まれた歴史や文化を保存継承していこうという機運もますます高まっている。</p> <p>○景観形成の効果 1988(昭和63)年から1989(平成元)年の改修工事において、戦時抛出されていた高欄や照明灯を、唐草風模様付きの格子高欄、五灯式あんどん型照明にし、復刻したレリーフを赤戸室石の側壁に用いるなどして、大正時代の面影を復元した。また、橋上にあった電線類を歩道に埋設し、周辺の情緒ある街並みとの調和を図った。現在、城下町ならではのしっとりとした景観に溶け込んでおり、金沢を説明する建造物として馴染み愛されている。</p>	
【位置図】	
<p>【関連ホームページ】 金沢市観光協会 http://www.kanazawa-kankoukyoukai.gr.jp/ 金沢百万石まつり http://100mangoku.net/ 金沢河川国道事務所 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/</p>	